

平成22年度 【 学園研究費助成金< A > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ アズマ タミ
氏名 東 珠実

研究期間 平成22年度

研究課題名 女性リーダー育成のための DUEL プログラムを用いたキャリア教育の実践に関する研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	東 珠実	現代マネジメント	教授
研究分担者	岡田 広司	現代マネジメント	教授
研究分担者	スティーヴン. E. クアシャ	現代マネジメント	准教授
研究分担者	ロバート. P. ジー	現代マネジメント	准教授
研究分担者	塚田 文子	現代マネジメント	准教授
研究分担者	室 雅子	教育学部	准教授
研究分担者	和久 豊	現代マネジメント	准教授

1. 本研究開始の背景や目的等

本研究は、平成20年度の学園研(A)の成果であるDUEL (Discussion, Understanding, Empowerment and Leadership) プログラムの試案(平成20年度学園研(A)報告書「女性リーダー育成教育プログラムの開発と実践に関する研究—DUELプログラムの展開方法の検討—」p.80)に基づき、同プログラムを、「キャリア教育」として展開することの可能性と有効性を明らかにすることを目的とする。具体的には、D、U、E、Lのそれぞれについて、取り組みやすい個別プログラムを企画立案し、本学学生たちを対象にプログラムを実行し、事後の調査や聞き取りによって、その効果と課題を明確にしようとするものである。

2. 研究方法等

- 1) プログラムD (Discussion) のキャリア教育としての展開
ドリーム・マップ(株式会社エ・ム・ズ)によるワークショップを計画・実行・評価する。
- 2) プログラムU (Understanding) のキャリア教育としての展開
職業的スキルとして有効なコーチング等に関する講座を企画・実行し、結果を評価する。
- 3) プログラムE (Empowerment) のキャリア教育としての展開
演習(学生による調査や外部のキャリア関連ワークショップへの参加)を計画・実行・評価する。
- 4) プログラムL (Leadership) のキャリア教育としての展開
学生の自主企画(商店街の活性化や商品・パッケージデザイン・広報の実践的研究)の推進プログラムを計画・実行し、成果を評価する。
- 5) 総括
上記1～4の研究成果をまとめ、報告書を作成する。

3. 研究成果の概要

- 1) プログラムD (Discussion) の研究成果 (クアシャ、ジー担当)
2010年11月17日、24日、12月1日、8日の教養演習Ⅱの授業で、1年生30名が、グループ学習をベースに、キャリアデザインを意識しながら各自の「ドリーム・マップ」を作成した。本取組は、1年次のキャリア教育の導入部分として適切であると判断された。
- 2) プログラムU (Understanding) の研究成果 (東担当)
2011年2月12日、コーチングの専門家を講師に招き、3年生10名を対象に、女性のためのキャリアセミナーを展開した。ワールドカフェ、ロジカルシンキング、PREP法等が、キャリアに必要なコミュニケーション力、考える力、伝える力の向上に有効であることがわかった。
- 3) プログラムE (Empowerment) の研究成果 (室、和久、東)
「学生による調査」については、2010年秋以降に、教育学部の教員志望の2年生27名による「キャリアモデルインタビュー調査」と、現代マネジメント学部の1年生12名による「喫茶店経営プラン作成のための市場リサーチ」を実施した。自らの将来や身近な職業の展開を念頭に置いた演習は、キャリアについて具体的に考え、問題点や課題を見出すことに寄与することが理解された。また、2011年2月19日・20日には、5名の学生をあいち男女共同参画財団が主催する「ロジカル・コミュニケーション講座」に派遣し、ロジカルシンキングが、コミュニケーション能力の向上に有効なスキルであることを確認した。
- 4) プログラムL (Leadership) の研究成果 (岡田、塚田)
「学生の自主企画」の推進プログラムとして、昨年度に続き、地域との連携の下、桜山商店街の活性化に取り組み、オリジナル地サイダー「さくら咲いたー」の商品化・事業化を行った。また、椋山オリジナルグッズ「椋山ベア」の商品開発・販売・広報も企画・実践した。これらを通して、アントレプレナーシップを高めるキャリア教育の指針を得ることができた。
- 5) 総括 (東)
上記の研究成果を報告書にまとめた。各プログラムを繋ぐDUELの理念を、キャリア形成を視点に再構築することと総合的なプログラムづくりが課題である。

4. キーワード

① DUEL プログラム	② キャリア教育	③ ドリームマップ	④ ロジカルシンキング
⑤ 演習	⑥ 調査	⑦ 商店街活性化	⑧ 商品開発

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- ・ 椋山女学園大学女性リーダー育成・研究グループ「平成22年度学園研究費助成金(A)報告書 女性リーダー育成のためのDUELプログラムを用いたキャリア教育の実践に関する研究」、50頁程度、2011年3月10日(発行予定)